

## 学校経営推進費 評価報告書（最終）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立豊中支援学校
取り組む課題	生徒の自立支援
評価指標	1 支援学校における児童・生徒、保護者の学校満足度の向上 2 近隣施設・地域住民の方々からのアンケート調査における満足度の向上
計画名	豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT (PTA との協働で創り出す、防災時にも役立つ教育環境整備)

### 2. 事業目標及び本年度の取り組み

学校経営計画の 中期的目標	1 児童生徒一人ひとりの特性や教育的ニーズに応じた支援を充実させるための、教員の専門性及び授業力の向上 (4) 学校生活全般において、合理的配慮の視点に基づき ICT やユニバーサルデザインを活用し、児童生徒に有効な支援の工夫に努める。 3 児童生徒一人ひとりの人権を尊重し、児童生徒・保護者から信頼される安全で安心な学校づくりの推進 (2) 防災・防犯計画及び大規模災害時における対応マニュアルの点検・見直しや必要物品の充実等、地域やPTA と協働して防災体制の確立を図る。 また、新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症予防対策を徹底するために自校版「新しい生活様式」を随時更新しながら日々の教育活動を推進する。 令和元年度学校経営推進費事業「豊中 安全安心 HOT ホット PROJECT (PTA との協働で創り出す、災害時にも役立つ教育環境整備)」3年次の取り組みを実施する。	
事業目標	災害発生時に備えて、防災、減災グッズを授業に活用し日常化することで、自らの命を守り抜く「自助」のための「主体的に行動する態度」を育成し、保護者との「共助」で非常時も安全で安心な学びの場を創造する。  ① ミライスピーカー（音のバリアフリースピーカー）の使用で、今までのスピーカーではできなかった児童生徒の聞こえの難しさを軽減し、主体的に授業や行事、非常時の心の安定を図れるよう環境整備を進める。 ② 日常の授業や、PTA 活動で発電機、ポータブル電源、各種テント、超短焦点プロジェクターなどを活用し、非常時に必要となる物品を普段使いできる学習環境の整備を構築する。 ③ マッスルスーツを高等部の授業に取り入れ、生徒と教員が共助して活動できる経験を重ねる。 ④ 簡易テントでパーソナルスペースを設定し、日常的に心の安定を保てる体験を重ねる。 ⑤ サマーイベント、PTA バザー、引渡し訓練において、地域、事業所も巻き込んだ防災啓発・防災グッズ体験をはじめシミュレーション訓練を実施する。 ⑥ PTA と協働し、校内に「安心ゾーン」を設定し、減災につながる環境整備を始動する。 ⑦ 府下知的障がい児支援学校における防災実践の実践例として、研究紀要や学校ブログを通じて情報発信する。	
整備した 設備・物品	●消耗需用費 LACITIA ポータブル電源 エナーボックス (2) SONY ワイヤレススピーカー SRS-XB21 (12)	サンワサプライ bluetooth レシーバー(4) Sandony bluetooth ワイヤレスマイク (6) 鍵付き管理ロッカー (1)

	<p>山善エアベッド PAH-001FP (6)  CAPTAIN STAG ワンポールテント (4)  CAPTAIN STAG ポップアップシェルター(4)  ニトムズ 窓ガラス飛散防止シート (30)  ルミキャップ 蛍光灯カバー (68)  DAYTONA ガソリン携行缶 (1)  Panasonic ポータブルワイヤレス送信機 (1)  SENA SPH10 インカムヘッドセット (4)</p>	<p>ヨガマット 10mm (5)</p> <p>●備品購入費  SoundFun! ミラリスピーカーMOBY セット (4)  マッスルスーツ Edge (1)  Honda 発電機 EU26i (1)  SONY XperiaTouch G1109 (2)</p>
<p><b>取組みの 主担・実施者</b></p>	<p>主 担：安全安心 HOT ホット PT (首席 2 名・指導教諭・教諭 5 名)、PTA 保健・防災委員会  実践者：授業プランナー、各行事チーフを中心とした全校教職員</p>	
<p><b>本年度の 取組内容</b></p>	<p>◎各授業、行事での防災グッズの活用  各授業：備蓄品体験（ポータブル電源、エアベッド、簡易テント等）  総合的な学習の時間と各教科での教科横断的な実践（避難所、防災スピーカーのマップづくり）等  行事等：式典行事（入学式・卒業式）、避難訓練、各授業も含めてのミラリスピーカーの活用  校務等：校内の環境整備（校内階段の呼称設定）、職員会議、各種研修でのミラリスピーカーの活用  インカムヘッドセットを活用した通学バス・放課後等ディサービス車両の誘導、学校 blog の更新  PTA との協働：備蓄品倉庫整理、体育館への窓ガラス飛散防止シートの設置作業  →実践交流会、研究紀要でのポスター発表および、NPO 法人さくらネット事務局『ぼうさい甲子園 2021』への応募</p>	
<p><b>成果の検証方法 と評価指標</b></p>	<p><u>成果の検証方法</u>  【教職員】 学校教育自己診断における防災意識に関する設問の評点推移を考察する。  （評点推移：72.4→74.5）  【保護者】 学校教育自己診断における防災に関する設問の評点推移を考察する。  （評点推移：90.1→86.6）  【対象生徒】 学校生活アンケートにおける防災に関する設問の評点推移を考察する。  （評点推移：84.4→84.2）</p> <p><u>評価指標</u>  教職員向け学校教育自己診断における項目「学校防災に対する意識が高まっている」の評点が 70 点、保護者向けの関連項目は現状の維持または 1 点以上の評点向上をめざす。</p>	
<p><b>自己評価</b></p>	<p><u>学校教育自己診断及び学校生活アンケート（3 年め評価）</u>  【教職員】 わたしは、施設・整備管理などを含めた学校防災に対する意識が高まっている。評点 73.0…………… (○)  【保護者】 学校は、防災や防犯など非常時に対する取組みを適切に行っている。評点 82.7…………… (△)  【対象生徒】 先生は、地震や火災などが起こった場合、どうしたらよいか教えてください。評点 79.4…………… (○)</p> <p><u>結果・考察</u>  学校教育自己診断および、学校生活アンケートでの防災に関する設問での評点において、目標として設定していた肯定的評価 70%以上は全ての設問において達成することができた。評点の推移としては低調傾向にあった。  校内での教育活動においては、『日常使いのできる備蓄品』という本事業の主題となる物品の活用が拡がり、児童生徒が整備物品を便利に活用している様子もあった。また、教職員と PTA が協働できる機会を継続することができた。加えて、昨年度より応募している『ぼう</p>	

	<p>さい甲子園』への応募も継続し、今年度は『UR レジリエンス賞』を受賞し、3年間の実践の成果を得て事業を終えることができた。</p> <p>また、『ぼうさい甲子園 2020』にも応募し、『チャレンジ賞』を受賞するなど、3年めの展開を想定した取組みも進めることができた。</p>
<p><b>事業のまとめ</b></p>	<p>『日常使いのできる備蓄品』をテーマに、災害等の非常発生時に備えて、防災、減災グッズを授業等で活用し、自らの命を守る手段を育む教育活動の実践を積み重ねてきた。</p> <p>音のバリアフリースピーカー「ミライスピーカー」の導入をはじめ、短焦点プロジェクター、ポータブル電源、エアベッド、簡易テント等の物品を使用した授業を実践している。</p> <p>また、地域にある避難所や防災スピーカーの場所を実際に確認して拡大マップを作成する取組みなど、各学部、学年の実態に合わせて様々な防災学習を積み重ねることができた。</p> <p>PTA 活動においては、教職員と協働して備蓄品倉庫の整理作業や、避難経路や避難場所となる体育館に窓ガラス飛散防止シートを設置するなど、減災につながる環境整備をすすめている。</p> <p>今後も、本事業を踏襲し、非常時においても児童生徒が（それぞれに合った手段で）主体的に命を守る力の育成に向けて働きかけていきたい。また、本事業の計画当初に企画していた保護者や地域の皆さまにも備蓄品体験していただける機会を今後の学校行事のなかで企画・実現し、本校の特色ある教育活動として今後も継続して実践していきたい。</p>

